



第318号

〈新入生特集号〉
2003年(平成15年)
4月7日

発行 明治大学
編集 明治大学広報部
TEL 03(3296)4083
E-mail: koho@mics.meiji.ac.jp
東京都千代田区神田駿河台1-1 (〒101-8301)

新入生に贈る言葉

希望に向かって歩もう

学長 山田 雄一



新入生の皆さん、明治大学へのご進学誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。皆さんは既に青年期のまっただなかにあり、自分の考えに従って行動できる人格へと成長をとげておられますが、皆さんをここまでお育てになられたご父母の方々の喜びは、お子さま方がお一人お一人の志によってそれぞれの学部・短期大学・大学院各研究科に進まれる今日の入学式を迎えられ最高潮に達しておられることと存じます。本当におめでとうございます。

さて、新入学者の皆さん、これから本学で過ごされる数年間は、人生において最も重要な意味を帯びた時期です。自分は真実何をしたいのか、自分には何ができるのか、自分は今何をなすべきなのかをじっくり考える時間です。一人で思いあぐねるような時は、信頼できる友人と話し合ってください。先人に助言を求めたい時は、身近な教職員に相談してください。明治大学には、皆さんのそうした気持ちを受けとめる教職員がいたるところにいるものと思ってください。そしてもちろん、何よりもご父母をはじめとするご家族の皆さんに心の思いを打ちあけてください。

人は人生を通じさまざまな集団に所属して生活しますが、そうした各種の集団の中で、成功も失敗も、得意も失意も、喜びも悲しみも無条件で受け入れてくれるはず

の集団が家族です。ご家族の愛にまつまれて今日まで成長なさった皆さんは、これから、あなたご自身の愛を、友人へ向け、社会へ向け、世界へ向け、拡げていく段階へと進むこととなります。

愛から生まれるのが希望です。目下残念ながら、日本にも世界にも希望の光はさしてはいないように見えます。かつてロンドン・エコノミスト誌がスウェーデンに言及して不況の海に浮かぶ希望の島と評したのをもしって、ある財政学者は次のように言っています。いまの日本は失われた一〇年に浮かぶ「絶望の島」だと。世界に目をやれば平和への希求と正義の名による報復とがせめぎあっています。こうした中で、正しい知識を習得し、深みのある感性を培い、確かな技を身につけ、美しい型を完成してゆくことは並たいていの努力では達成しがたいことかもしれない。しかし志をそれに向かって明確にし、一步一步着実に進むことは誰にでも可能です。皆さんは、これまでもそのようにして今日の本学入学という成果をあげられたのですから。

一八八一年に三人の若く有能なフランス法学者によって創設された明治大学の建学の理念は「権利自由」「独立自治」です。皆さんお一人お一人が「個」を鍛え、競争原理にも強く共同原理にも強い人物へと成長できるよう、私も明治大学関係者一同は全力をあげて支援いたします。

皆さん、いかに絶望的な時代であっても希望へ向かって共に歩もうではありませんか！

明治大学校歌

児玉花外 作詞
山田耕筈 作曲

- 一 白雲なびく駿河台
眉秀てたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の榮になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校
- 二 権利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗幟し
高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや
- 三 霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いてや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ



「ご入学おめでとう」ございます。これから始まる皆さんの大学生活が、総ての面で充実したものであることを心から祈ります。

いま日本社会は、新しい時代状況に入りつつありますが、この時代を担うのは皆さんであり、これから学ぶことは、この新しい時代に人間が何をなすべきかという問いに答える内容を持たなければなりません。現在の状況下で人々が疑問に

ようこそ 明治大学へ

新入生諸君、ご入学おめでとうございます。

量から質へ、画一性から創造性へ、諸君が新たな一歩を踏み出した大学では、これまでの教育課程とは異なる姿勢への転換が強く求められます。自己責任の下、如何に目的意識をもって、限られた時間を有効かつ主体的に活用し得るか、このことが所定の修業年限を満了した後に、諸君が有する知



思っていることに解答を見出し、不満に思っていることに出口を与え、人々に希望を与える何かを創り出すことが求められています。是非皆さんにこの社会からの要請に答えていただきたいと思ひますし、

大学もそれをバック・アップする態勢を整えています。

大学はいつでも、現実の社会と接しています。社会が求めている新しい認識や技術を研究開発することを目的としているからです。その試行錯誤の渦の中で、皆さんは学習することになります。大学では、

創造への意欲

総長 栗田 健

懸かっているからに他なりません。その期待に応えることは、大学の社会的責任であり、創造こそ大学の生命です。

その試行錯誤の渦の中で、皆さんは学習することになります。大学では、

自由な発想と前向きな姿勢を

理事長 長吉 泉

要視されています。かかる情勢の下、諸君が、社会の要請に応えるべく、自由な発想と前向きな姿勢をもって、その能力を存分に発揮する為には、時勢に通じた人的・物的環境に身を置き、種々判断の拠

り所となる盤石な基盤を構築する。これが必須の条件と言えましょう。

時代は、多様化・複雑化の様相を強めており、以前にも増して、社会発展の活力源たる学生の役割が重

創造的姿勢を喚起する先生方の指導や未来を模索する仲間との切磋琢磨、そして社会の最先端で活躍

れを維持するために国の資源が大いに投入されていますが、そのための社会の負担は極めて大きいものがあります。社会がそれに耐えている理由は、ここで創り出される新しい可能性に、人類社会の将来が

だからこそ教員が全て研究者で構成されており、研究の場で教育が展開されています。次の時代を担う人材を育成する場所はそのような環境を確保する必要があります。最先端の課題と取り組んでいる教員と一緒に、これからの人類社会を

大学院教育のこれから —グローバル化のなかで—



大学院長 中邨 章

あたらしく大学院生になられた皆さん、ご入学おめでとう。指摘するまでもありませんが、日本は今、大きな変革期を迎えています。これは大学院教育においても例外ではありません。明治大学の大学院もこれから大きく変わろうとしています。二〇〇四年から既存の七研究科にくわえて、法科大学院と公共政策大学院、それにビジネススクールがあたりらしくスタートします。

また、二〇〇五年からは会計専門職大学院が登場する予定です。

大学院では既存の研究科を充実することはもちろんですが、あたらししく登場する専門職を養成する大学院についても、他大学を圧倒する教授陣とカリキュラムを整える途次にあります。

これまで、日本ではどの大学院を卒業したかが重視されてきました。これからは、大学や大学院でどのような自身の教育を受け、どこだけ高度な専門知識を身につけてきたかが問題になります。今後、多くの学生が大学院に進学し、それぞれの分野で専門知識を身につけたあと、就職するのが一般的な

トワークを通じて結ばれる世界的知的資産は、諸君に、絶え間なく変化し続ける時代の躍動を教示するものと存じます。

本学の一員となった諸君においては、これらを存分に活用され、建学の精神の下、知能の啓発と自己修養に徹するとともに、未来を見つめ、高邁な人格の形成に努められますよう願ひいたします。

退屈した日々は長く、充実した日々は短いものです。その沸き上がる情熱により、諸君の学生生活は、瞬く間に過ぎ去ってしまふものと推量いたしますが、駆け抜けていく日々の中にこそ、これからの時代を動かす力の源があることを、心に留め置き願ひたいと存じます。

パターンのなってきた。すでに自然科学では、それが一般化していますが、社会科学や人文科学の分野でも、今後、ますます大学院に進学する学生が増加し、専門家を目指す人材が増えることが予想されます。その意味でも明治大学大学院に課せられた使命は、きわめて大きいといえます。

そのため、明治大学大学院では、大学院での研究や教育を支援する体制を充実することにも力を入れていきます。二〇〇三年度から、RA(研究補助業務従事者)やTA(教育補助業務従事者)制を導入し、院生諸君が研究や教育のノウハウを实地に研修できるシステムを立ち上げました。すでに相当数の院生諸君が、それらのポストに採用されています。

また、大学院レベルの国際交流を促進することもすでに実施の段階に移っています。国際的に通じる研究者を養成することが、明治大学大学院に課せられた大きな課題です。新入生のなかから世界を舞台に活躍する人びとが育つことを切望しています。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの努力とご家族の温かいご支援によって、この日を迎えられるものと思えます。これからの学生生活が有意義で、かつ思い出の多い青春時代になるよう、私も法学部の教職員は真心をもって勤めさせていたいただきます。



「遠くを見つめる」 心構え

法学部長 納谷 廣美

いつの世でもそうですが、とくに最近のように複雑で移り変わりが激しい時代には、とかく声の大きい方に全体がなびくことになりやすいものです。しかし、ある時期においては、当たり前のように考えられていたことが、その後しばらくして、おろかなことであつたと言われるようになることについては、私たちは多種多様な局面で経験しています。何を言ってもだめだと思われたことが、時間をかけて努力すれば、動くことも、これまた事実です。目前のことに一喜一憂するのではなく、「遠くを見つめる」心構えが大切であると思います。確か、NHKのプロジェクトXという番組と記憶していますが、南極観測の越冬隊長になった西堀栄三郎氏が「と

にかく、やってみなはれ。やる前から諦める奴は、一番つまらん人間だ」と語っていたことを思い出しました。この言葉を、皆さんにも贈りたいと思います。大きな樹は、自由に、かつ四方八方に枝葉を伸ばしています。そのためには、自らの根を同様に広げておられます。皆さんには、この二〇〇一年度の東京という大都会の雑踏の中で、時代の新しい息吹きを感じたいと思います。法学部で学ぶことは、単に現行の法制を知識として蓄積することではありませぬ。その法律や制度がどのような社会的ニーズに対応して誕生したか、そして、そのことが現代の社会において今なお十分に役割をはたしているのか、それとも一種の障害となってきたりしていないかなど批判的に物事を観ることの必要性を学んでほしいと思います。最後にになりましたが、これから四年間、広い教養と深い専門知識を習得するには、健康であることが大切です。このことに留意して、大学での勉学をエンジョイしてください。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんが学ぶ商学部は二〇〇四年に百周年という記念すべき節目を迎えることとなります。この百年間の教育・研究の実績を踏まえてさらなる飛躍を遂げるべく、現在、様々な取組みが行われております。

二〇〇一年度から、それまでの商学科と産業経営学科からなる二学科制を廃止し、商学科への一体化も果たしたことも、この一つです。これにより、今後の商学部教育目標や教育内容をより明確に設定することができると考えております。また、「市場およびそこに生じる様々な形態の取引や商業活動を総合的に教育・研究すること」とも表現することができましよう。二〇〇四年度からは、二部の学生募集停止と昼夜開講制の導入ならびに履修形態のフレキシブル化とセメスター制の実施が予定されております。

公認会計士や税理士等の資格取得を目指す学生諸君の学習目標に合致した「アカウンティング」コースと、社会人の学習上のニーズに応える内容の「クリエイティブ・ビジネス」コースが二〇〇四年度からスタートします。

現在、デリーやパティヤやコマースといったバーチャルな市場で行われる新しい形態の取引や商業活動が、グローバルな広がりの中で急速に進展しております。それらを教育・研究の主たる目標にかけ、商学部は、いまや、時代の最先端を行く学部ともいえるのです。時代にふさわしいカリキュラムの内容と教育方法の導入によって、商学部を学ぶ学生の自信と満足が得られるよう努力しております。どうかこれからの四年間で学ぶことの楽しさを実感してほしい。そしてそのことが、これからの皆さんの人生を充実したものにしてくれることを願っております。

学ぶことの楽しさを

商学部長 鈴木 義夫

ご入学おめでとうございます。おおきな可能性と希望とをもって政治経済学部に入学された皆さんを心より歓迎いたします。皆さんはいま、大学に入ったけれどもやりたい、これもやりたい、あそこへ行ってみよう、ここにも行ってみたいという思いを募らせていることでしょうか。それは当然で、それだけに苦しい受験勉強をしてきたのだという人もいます。それは、大学の四年間は、人生のなかでもっとも春先に富み、様々な経験が身になり人々を磨く時期でもあります。そして、そのための時間は十分に与えられています。ただ、これだけ知っておくべきでしよう。大学生活の基本的には、その四年間は案外短く、それこそ瞬く間に過ぎてゆくのだということです。過ぎ去ったあとには、いやもおうもなく「仕事」をする人生が待っています。生きてゆくためには、人は「仕事」をしなければならぬことを期待します。

その生きてゆくための良き土台を提供するのが学問です。学問の根本は、ギリシア哲学の始原から「己自身を知る」ということにかかれています。そのためにも、自らが生かされている自然環境や社会や文化、歴史を知らねばならず、そうした座標軸の中に自分自身の位置づけを明確にしてゆくことが必要です。自分がいま、どんな社会のどんな時代に生きているのか、これを認識することです。言い換えるなら、現代社会の基本的な仕組みを理解し、時代の大きな方向性を読みとける力を身につけることが大切です。大学では、学問によって、そのための土台づくりをしなればなりません。大学はまた、学問を通して人と人とが出会い、互いに切磋琢磨することにより、

おおいなる飛躍に向けて 充実した4年間を

政治経済学部長 飯田 和人



それぞれが新しい自分自身を創造してゆく場でもあります。人生のなかでもっとも自由で可能性に満ちた時を刻むであろう大学の四年間、その時空を共有する仲間とともに、おおいなる飛躍に向けて充実した学生生活を過ごされることを期待します。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
 念願が叶って志望どおりに本学部への入学を果たせた人はもちろん、実をいうと自分の意志に反してここに入学することになってしまったのだという人も、今日からは、そうした個々人のいきさつとは一切関係なく、この明治大学文学部を、各自の自己形成にとつての最も大切な根拠地としながら、ともに充実した大学生活を送ることに努める新しい仲間たちということになるのです。

「人間」に対する深い関心

文学部長 原 道生



て、入学後の皆さんが所属することになる「専攻」という単位が細かくいくつにも分けられているという点が大きな特色となっている。そのため、時には、例えば、日本文学と心理社会学、演劇学と考古学といった具合に、お互いまるで縁のなきような同士が雑然と寄せ集められているだけで、それら各々の間に認められないと考えられてしまうという目標の第一歩が全くないわけではありませぬ。若い時には、若くは、大変な誤解です。実際は、それは逆で、無関係であるかのように見えるかもしれない文学部の全専攻の基盤には、遠い過去から現在にいたる、そして、広く全世界にわたっての、生きも考えられませぬ「人間」のあり方に対する関心というものが共通して存在しているのです。

新入生の皆さん、ちょうど良いチャンスです。こんな絶好の機会が二度とありません。自分の学生時代に身に付けるべき、そして果たすべき目標を立てましょう。自分はどんな人間になりたいか、どんな道のプロフェッショナルになりたいか、将来の自分の夢を描き、夢の方から、逆に入学したばかりの今の自分を眺めてみましょう。現在、何をなすべきかという目標の第一歩が見えてくるかも知れません。

初めに目標を立てよう

理工学部長 向 殿 政 男



りと学んで身に付けることです。理工学部の分野は、どちらかというと積み重ねが効きます。西洋の教育のような大きな建築物の基礎がしっかりと立っていると同様、大きな業績を挙げたり、大きな人物になるには、がっちりとした基礎が不可欠だからです。二つ目は、幅広い教養を身に付けることです。最近、理工学部の社会的責任や、持続可能な安全な社会の実現のための理工学の役割が重視されています。理工学と社会・人文科学との融合を目指さなければならぬ時代になりました。教養に裏打ちされた見識と倫理観を持った技術者、各分野で活躍できる理工系の人材が不可欠になって来ているからです。

農学部の新入生の皆さん、まず農学を再確認してみてください。人間は種々の外敵や自然環境から過酷な試練を受けながら身を守り、狩猟・採集生活から生命を維持するため衣食住に必要な生物資源の恩恵を受けてきました。植物の採集から種子が発芽、生長、開花、結実してより多くの種子が実る植物の生活環を学び、その知見を基礎として作物の栽培方法を組み立て、その収穫物を試行錯誤のすえ貯蔵する方法も考案しました。また、一部は家畜を飼育することで厳しい自然にも対処する方法で安定した生活基盤を切り開き、農業が誕生しました。さらに様々な知的欲求から動植物の育種をはじめ、最良の収穫を得る方向に農業技術を徐々に組み立ててきました。その後、これらの技術は、生活の目的だけではなく、得られた知見を体系化と基本的な現象の法則性の解明へと発展させ、農学の構築へと発展しました。ですから農学は、生物を対象にその生命生理の基本的な知識を整理統合して、生物資源の生産、保存、活用へと再構築し、必要に応じた生産技術を体系化する科学です。この農学

農学部でなにを学ぶか

農学部長 稲 富 秀 夫



の分野にも、細胞融合や遺伝子組換え先端技術の手法が導入され、農業生産に新展開が期待されています。作物に除草剤耐性や害虫耐性など今までにない形質を遺伝子操作という新しい技術で付与し、画期的な食糧増産を目指しています。また新しい視点から、植物を食糧ではなく植物工場として考える分子農学も誕生しつつあります。発酵工業は生化学的な物質生産系として微生物を利用して有用な生理活性物質などを生産する分子農学です。医薬品を作る植物工場や糖尿病にならないトマト、食中毒を予防するレタス、食べるワクチクの創製等、付加価値の高い分子農業の可能性が考えられています。

しかし二一世紀は人口、食糧問題や地球環境問題によって、人を含む生物の多くが滅亡の危機を迎えるのか、それとも人間が自然から新たな知恵を授かることによって他の生物とともに地球上に存在し続けるかどうかの岐路に立つ時代といわれています。新入生の皆さんの今後の努力と新しい分子農学は、こうした問題解決に深く関係していくと思えます。

経営学部へのご入学、おめでとうございます。

明治大学の経営学部は一九五三年(昭和二十八年)に私学最初の経営学部として創設されました。昨年は五〇周年という記念すべき年でした。その記念すべき年に、従来からあった経営学科に会計学科と公共経営学科という二つの新しい学科を加えて三学科制を採りました。これは、時代の趨勢を見据え、新しい時代の要請に応えるためです。

新入生諸君は、既に将来の目標を定めて、学科を選択してきたと思います。しかし、一応、学科の性格を簡単に述べておきましょう。

経営学科は、将来、企業の経営・管理の専門家となることを志向する者を養成する学科です。今日、日本企業の経営活動は海外に目が向けられ、また、情報技術の普及も目覚しくなっています。それから、組織・仕事・管理・意思決定などのあり方を大きく変えております。今後、企業は環境の変化に対応することが必要となってくるでしょう。

会計学科は、公認会計士、税理士、国税専門官といった会計のプロとして活躍できる人材を育成する学科です。今日、企業活動が国際化し、また、情報化社会が発展してきています。こういう時代にあつて、わが国でも世界に通用するような会計のプロを育成していくことが強く求められてきております。

公共経営学科はNPO、NGOなど社会性、公共性を前面に押し出した活動や組織に注目する学科です。健康で、豊かな、環境に優しい時代を築いていくために、二一世紀はNPOに代表されるような新しい活動が求められるようになってくるでしょう。経営学部では、夏季休業期間を利用してジョブ・インターンシップ制度を導入しております。この制度は学生に自分の専攻、将来のキャリアに関連する就業体験をしてみようとする新しい制度です。また、急速な国際化とともに、ビジネス社などで外国人とコミュニケーションとして「話す」「聴く」「書く」という能力が以前よりも重視される



目標に向かって、大いに勉強を

経営学部長 平井 克彦

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんの入学した本学は、一九二九(昭和四)年に明治大学専門部女子部として創立されました。ここで創立の経緯を振り返るとは、学び舎を知る意義あることです。

当時はまだまだ封建遺制が根強く、性別による差別の法制度が敷かれていた。こうした制度は、歴史的・文化的・社会的に構成されてきた性差すなわちジェンダーによって正当化されてきたわけですが、男女が共に社会で活躍するために平等な機会を得ることができるようになることが大切です。

時、女性のための高等教育機関もありましたが、「分離された子ども平等」では、真の平等とはいえない。社会科学系の学問はとくに困難でしたが、こうした時代に創立者が、男性の牙城と見られた法学界と実業界に女性の人材を輩出すべく、法科と商科(その後法律科と経済科に改編)という社会科学系の高い学生を法学部、商学部をはじめとする学部に入れて専

ようになつてきました。経営学部ではIBP(International Business Program)という短期留学制度を導入しています。大いに活用してください。

入学時に各自が定めた目標に向かって、大いに勉強してください。



伝統の襷をかけたアンカーの快走に期待する

短期大学長 中村 義幸

門教育を施す制度を創設したことは、当時あつては、校歌の一節にある如くまさに「時代の夢を破る」快挙でありました。その後、学制改革を経て現在の短期大学となりましたが、創立以来七十有余年、法曹界、実業界をはじめとする各界に多数の有為・著名な人材を輩出してきたことは、衆目が一致して認めるところです。

新入生の皆さんは、こうした先輩が学んだ学び舎に今まさにその一歩を記したところで、(社会科学系)学部の協力により、成績優秀者の上位一五〇名は大学学部に推薦入学できる体制も整いました。先輩に続いてください。

ところで、明治大学は、二一世紀の課題の一つは、社会における「情報コミュニケーション」の意義・役割の社会科学の解明にあると見定め、五〇年ぶりに再び時代の夢を破る新学部設置を構想です。短期大学もこれに全面的に参加するため、新入生の皆さんは短期大学の最後の入学生となる予定です。短期大学の教職員一同は、いわば伝統の襷をかけたアンカーである皆さんの、奮励努力の快走に期待しています。

新入生はターゲット！ 個人情報の管理は慎重に！

初めての一人暮らし、東京デビュー。でも、そんな皆さんを待ちうける罠にどうかご用心を。大学生に多いトラブルは、外国語スクールやパソコンスクールの解約、新聞勧誘、自己啓発セミナーや宗教まがい団体への加入、化粧品やエステティックサロンなど。今日も駅前で声をかけられませんか？

「アンケートをお願いします」「モニターになりませんか」「署名運動に協力を」「手相の勉強中ですが」本来の目的をかくして近づき、事務所拘束して断れない状況で不当に高額な商品や実態のない会員サービスの契約をさせたり、過激な主張の政治団体やカルト的な疑似宗教団体に誘ったり。

「出会いの場」を通して学生生活への適応の援助もめざしています。授業を離れての行事として、スキューバダイビング、ハイキング、農業体験など色々な催し物を企画予定しています。「学園だより」や掲示やホームページでお知らせしますので、ぜひ参加してください。

学生相談室

駿河台 大学会館二階 電話〇三(三三)九六〇二一六・七
和泉 第一校舎二階 電話〇三(五三)〇〇一一七八
生田 中央校舎二階 電話〇四(九三)四七六一九

青空相談会に

来てみてください！

大学生活に関するこんなこと、あんなこと……
わからないこと、知りたいこと、なんでもどうぞ。
相談員の先生とお話しませんか！

新入生のためのキャンパスライフ Q and A 青空相談会

日時 4月11日(金)、14日(月)、15日(火)、16日(水)
12:00~13:00
場所 和泉第一校舎 1階ロビー

※問い合わせは 各地区学生相談室まで



▲ 情報収集は大学生活で必要不可欠
大学の情報収集は、主にインフォメーション・ボードと掲示板で行われます。毎日チェックは欠かさず!!



▲ 大学スポーツで“明大生”を実感しよう!!
写真は、毎年、12月第1日曜日に行われるラグビー『明早戦』。校歌の合唱で“ひとつ”になろう。

明大 Campus Life

▼ 学園祭は学生のイベント
秋に開催された生田校舎の学園祭『生明祭』の風景。明大生はじめ近隣の住民が家族連れで多数来場し賑わいます。



▼ 証明書は自動発行機で
在学証明書や学割証などの証明書は、学生証を使ってこの機械で発行されます。学生証は身分を証明するもの。常に携帯することにもしっかりと管理しましょう。



『学園だより』は学生のための広報紙

『明治大学学園だより』には、明大生へのメッセージが詰まっています。行事や施設の案内、「明治」の歴史、掲示板にはない行事参加者の体験報告など情報が満載。毎月愛読してください。毎月一回(原則一五日、八月・九月・二月は休刊、年一回)各地区専用のラックで配布しています。各地区のラック設置場所は次のとおりです。

☆駿河台校舎ラック設置場所

○リバティタワー

1階エスカレーター前・エレベーター前

2階エスカレーター前・17階食堂前

中央図書館入口

○大学会館入口

○12号館入口

☆和泉校舎ラック設置場所

○第一校舎入口・ロビー

☆生田校舎ラック設置場所

○中央校舎北入口・各学部カウンター

○食堂館2階食堂入口

明治大学広報部

「学園だより編集担当」

電話：03-3296-4083

メール：koho@ms.meiji.ac.jp

Webでも公開中!!

<http://www.meiji.ac.jp/koho/information/pr/index.html>



第五回 人権講演会(全五回) 開催案内

①「明治大学の建学精神と人権」

吉田善明・学務担当常勤理事

▽日時 四月一五日(火) 12時～(約50分)

▽会場 和泉第一校舎211教室